


銅・アルミレポート

橋本アルミ株式会社取締役
橋本 健一郎



2月のアルミ概況および3月の見通し (3)

予想レンジ	
LME 現物後場買い	2,300-2,500ドル ●
スクラップ	+10円 (前月最終価格より) ●
為替	135円~140円 円安
(1か月間TTM)	

■国内概況まとめ

【自動車生産】

生産動態統計によると1月の自動車生産台数は前年比+13.4%の58万5,935台。

輸出は前年同月比-4.9%の23万7,288台。

【自動車販売】

日本自動車販売協会連合会によると2月の自動車販売台数(軽除く)は前年比+26.3%の26万9,837台。

内訳は、乗用車が+28.1%、貨物が+13.8%、バスが+47.4%。

【住宅着工戸数】

1月の新設住宅着工は、持家は減少したが、貸家及び分譲住宅が増加したため、全体で前年同月比6.6%の増加となった。また、季節調整年率換算値では前月比5.5%の増加となった。

○新設住宅着工戸数は63,604戸。前年同月比6.6%増、4か月ぶりの増加。

○新設住宅着工床面積は5,075千㎡。前年同月比2.2%増、5か月ぶりの増加。

○季節調整年率換算値では893千戸。前月比5.5%増、2か月連続の増加。

【アルミ圧延・押出生産数】

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば板類・押出生産合計は前年比-12.9%の12万1,793t、10か月連続マイナス。

板類は7万1,625tの-17.2%で9か月連続マイナス。
押出類は5万168tの-5.9%で13か月連続マイナス。

【アルミニウム2次合金 同合金地金等生産実績】

前年比は-3.2%の5万3,696tで2か月連続マイナス。
出荷は-7.3%の5万3,455tで2か月連続マイナス。

【輸出】

新地金は+46.3%の98t。
二次合金は-46.2%の829t。
スクラップは+12.7%の1万7,903t。
アルミ缶は-39.4%の3,727t。

【輸入】

新地金は-26.8%の10万9,337t。
二次合金は-11.3%の8万7,350t。
スクラップは+60%の1,023t。
合金スクラップは-14%の9,075t。

【見通し】

【自動車】

1月の自動車生産が+13.4%。2月国内販売台数が前年比+26.3%。生産、販売共に回復の兆しあり今後に期待。

【アルミ圧延・押出生産数】

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば板類・押出生産合計は前年比-12.9%の12万1,793tで10か月連続マイナス。

ゼロコロナ政策の名残で弱電系の生産需要が遅れてる事から来月も期待薄。

【アルミニウム2次合金 同合金地金等生産実績】

前年比は-3.2%の5万3,696tで2か月連続マイナス。
出荷は-7.3%の5万3,455tで2か月連続マイナス。

世界的なコロナ策の緩和からの自動車生産の回復により今後、自動車の挽回生産が進行するものと期待される。

・アルミ輸出は中国向けや円安を受けて新地金スクラップが増加。

・アルミ輸入は内需低迷や円安からスクラップ以外増加。

【スクラップ景況予想】

流通(一次問屋)在庫は前月に続き欧米の金融引き締め策からLME価格が2,500-2,300ドルとやや下落。自動車生産、住宅着工とも回復基調にあるが今月はまだ入荷も少なそう。需要面に関しては世界的なコロナ政策の緩和により今後、自動車の挽回生産が進行するものと期待される。

【LME・為替予想】

今月は以下の項目に左右される。①米の金融政策、②中国景気回復の動向。

①に関しては、米の金融政策に関しては年明け以降強急な雇用統計やサプライマネジメント協会(ISM)製造業景況感指数は仕入れ価格指数が前月から上昇し、インフレ圧力の強さを示す内容だったことから今後も引き締めは続くのではないかと。

②の中国景気回復の動向に関しては、中国製造業PMI製造業生産指数が49.8から56.7と急激な改善がされたことやゼロコロナ策が終了し感染拡大も治まった事などから回復期待がもてるのではないかと。

これらを踏まえた3月のアルミ価格は2,300-2,500ドル(セトル)との予想。ドル円値は135円~140円(TTM)台を予測。スクラップ購買価格に関しては+10円程度と予想している。

(「2月のアルミ概況および3月の見通し」おわり)

故銅・銅滓 アルミ原料

高価即金買入
——ご照会を乞う。

森下商店

大阪市西成区南津守 7-12-46
TEL (06)6659-5577~8
FAX (06)6659-5579

日刊金属 既刊収録サイト

<https://nikkankinzoku.co.jp/>

